



2021年1月1日
号外

JR東労組 Yokohama

JR東労組横浜地本

発行人 助川一実
編集 情宣担当
ホームページ



<http://www.jreu-yokohama1.jp/>

新年のごあいさつ



JR東労組横浜地方本部
執行委員長 助川 一実

組合員・ご家族の皆さん、OB会の皆さん、
新年あけましておめでとうございます。

1年前の今頃、昨年の状況を一体誰が予想
したでしょうか。新型コロナウイルスの感染
拡大によって世界が未曾有の危機に直面し、
経済は深刻な大打撃を受けてしまいました。

しかし、お客様の流動が変化したとして
も、海外からのお客様が目に見えて減ったと
しても、組合員はJRが日本経済に不可欠な
社会インフラとしての使命を果たすために、
感染リスクと背中合わせの中で奮闘してき
ました。コロナ禍にあって「感染しない・さ
せない」ことを組合員が実践し、家族の皆様
の支えによって、JRの安全と安定輸送を実
現していただいたことに心から敬意を表し
ます。

その一方で、私たちの労働組合としての活
動の制限を余儀なくされました。労働組合の
生命線は「対話」と「団結」ですが、職場集
会や座談会の制限が、あるいはサークル活動
やレクソして歓送迎会など、ことごとく中止
せざるを得ませんでした。しかしそのような
逆境にめげずに職場活動を変化させ、あるい
は新たなところろみによって労働組合として
の運動を創造してきたのです。具体的には、
夏季手当や期末手当の要求づくりであり、福
利厚生・住環境制度にかかわる「政策提言」
実現に向けた運動等が挙げられます。コロナ
禍で切り拓いた道として、組合員の声を要求
に高める運動を通じた組織づくりとして学
ぶことができました。そしてこのことは21

春闘やあるいは過半数代表選で大いに活か
せる教訓となりました。

しかし、JR東労組にとって、いまだに予
断を許さない状況にあります。JR東日本の
決算について、通期で最終赤字の見通しを4
180億円としました。一部には楽観的な
声も聞こえますが極めて深刻な危機に直面
していることは疑いようもない事実です。

昨年11月から感染者数は急増しており、年末
年始の動向如何では感染爆発や医療崩壊も
現実となつてしまっています。日本における新型
コロナウイルス感染症に起因する解雇、雇
止めへの影響は7万人を超えました。雇用情
勢が悪化し、雇用不安はさらに拡大すると思
います。ワクチンによって短期間で世界が劇
的に回復するとは思えません。仮にJR東日
本の収入が8割近く回復したとしても経営
コストが同額かそれ以上であれば、抜本的な
経営改革、コスト管理の見直しを図らない限
り、黒字回復は厳しいのだと思います。会社
は二期連続の赤字は何としても回避しなく
てはならないと危機感を持っています。そ
のことは現場であまり語られていません。J
R東労組中央本部が策定した「雇用と職場を
守るための緊急提言」について、職場で掲示
し、議論を開始していますが、今直面してい
る現実の危機の認識にたつて労働組合とし
て議論し、組合員一人ひとりの意識に広める
ことを引き続き実践課題とします。

私はANAやJTのボーナスカット、店
舗閉鎖、副業のススめ、出向、首切りなどの
同じ業態の職種等が厳しい経営対策を断行
している現実を目の当たりにして他人ごと
とは思えません。労働組合の役割は単的に雇
用を守ることで、組織された労働者と家族
の生活を守るために組織で考え行動し、会社

と真剣に議論できるのは唯一労働組合です。

2021年に向かうJR東労組は、更なる
質的強化と組織拡大をめざします。全組合員
で組織拡大を実践し、会社にも社会の変化に
もろっかりと対応する労働組合でなくては
なりません。会社は「変革2027」を基礎
に施策の前倒しや新たな効率化に着手しよ
うとしています。その場合に職場環境、労働
条件や安全レベルが低下する恐れがありま
す。また先端技術を駆使した自動化やシステ
ム化の一方で、例外なく一人ひとりの労働者
の負担は増す傾向にあります。この間の施策
の検証や新たな施策に対する議論で明らか
なように「最後の砦は人である」ことをおい
て運動し、団体交渉へと高め、協約化してい
くたたかいを重視していきます。会社との帳
尻合わせや迎合ではなく「JR東労組として
言うべきは言い、やるべきはやる」ことを明
確にして「JR東労組でよかったね」と実感
できる組織をめざします。

2021年は組織強化・拡大を実現し、皆
さんで飛躍の年にしてまいりましょう！組
合員と家族のみなさんのご健康とご多幸を
お祈り申し上げ新年のごあいさつとさせて
いただきます。

2021年元旦

